



欄に数値またはコメントを記入

<b>1. 建物概要</b>					
建物名称	(仮称)ユーコープ静岡ベース新築工事	BEE	1.6 BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価	凡例	コメント
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.5	/5		ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.1	/5		ふつつ	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.4	/5		ふつつ	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5	/5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価	凡例	
			よい	4	点以上
			ふつつ	3	点以上
			がんばろう	3	点未満

3. 重点項目についての環境記憶概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</b>		得点	3.5	
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④給排水設備配管は耐用年数の長い硬質塩化ビニル管を採用</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地内の緑地及び植栽を計画し外構緑化指数を20%以上とした。 ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦モデル建物法BPI<sub>m</sub>=0.84 ⑧太陽光照明システムによる自然エネルギーの利用。 ⑨モデル建物法BEI<sub>m</sub>=0.66</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水型器具を採用。 ⑪雨水利用設備の導入による雨水の有効利用。 ⑫非躯体材料にリサイクル材を複数使用。 ⑫OAフロア、可動間仕切りを採用 ⑬断熱材はノンフロンかつ地球温暖化係数GWP=3以下を使用。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭省エネルギー対策。 ⑮敷地外への風通しを考慮し見付面積比率を40.74%とした。</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備</p> <p>3.2 3.2.1 ③ 昼光制御</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>2 ⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>3 ⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>4 4.1 ⑩ モニタリング</p> <p>4.2 ⑩ 運用管理体制</p> <p>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水</p> <p>1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減</p> <p>2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤</p> <p>3.2.2 ⑬ 断熱材</p> <p>3.2.3 ⑬ 冷媒</p> <p>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>			
	<b>"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)</b>		得点	3.1
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰空調・換気設備は個別運転可能な設備を採用し災害時等に備えた。</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性</p> <p>2.1.2 ⑯ 免震・制振性能</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備</p> <p>2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>2.4.3 ⑰ 電気設備</p> <p>2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</p>		
		<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)</b>		得点
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳階高3.9m以上でゆとりある計画をした。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑防犯対策として防音壁以外はメッシュフェンスを採用した。</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり</p> <p>3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ</p> <p>Q-3 3 3.1 ⑳ 地域性への配慮、快適性の向上</p>			
	<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)</b>		得点	2.5
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) ⑳敷地内の緑地及び植栽を計画し外構緑化指数を20%以上とした。 ㉓緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。</p> <p>■敷地外環境対策 (㉔持続可能な森林から産出された木材/㉕温熱環境悪化の改善) ㉕敷地外への風通しを考慮し見付面積比率を40.74%とした。</p>	<p>Q-3 1 ㉓ 生物環境の保全と創出</p> <p>2 ㉒ まちなみ・景観への配慮</p> <p>3 3.2 ㉔ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-2 2 2.5 ㉔ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>LR-3 2 2.2 ㉕ 温熱環境悪化の改善</p>			

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 |使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ユーコープ静岡ベース新築工事	階数	地上2F
建設地	静岡県静岡市清水区 豊田原 片山土地地区商業用地内 第2街区、第2地区	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	461 人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2022年7月14日
敷地面積	18,104 m <sup>2</sup>	作成者	㈱エネ・グリーン 定森 淳一
建築面積	10,011 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	16,733 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6** ★★★★★☆

S: ★★★★★★ A: ★★★★★☆ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.9

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.4

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.8

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。 モデル建物法BPI <sub>m</sub> =0.84, BEI <sub>m</sub> =0.66 太陽光照明システムによる自然エネルギーを利用する。 雨水利用ユニットを設置し、資源マテリアル対策に配慮する。		自家発電設備を導入。
<b>Q1 室内環境</b> 事務室は開口部遮音性能T-2の建具を採用した。 また、床・天井は吸音材を使用し、室内環境の向上に配慮した。	<b>Q2 サービス性能</b> 給排水設備配管は耐用年数の長い硬質塩化ビニル管を採用した。 階高3.9m以上でゆとりある計画をした。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 敷地内の緑地及び植栽を計画し外構緑化指数を20%以上とした。 緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。
<b>LR1 エネルギー</b> モデル建物法BPI <sub>m</sub> =0.84, BEI <sub>m</sub> =0.66で省エネルギー性能に配慮した。 太陽光照明システムによる自然エネルギーの利用。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水型器具を採用した。 雨水利用設備の導入による雨水を有効利用した。 断熱材はノンフロンかつ地球温暖化係数GWP=3以下を使用した。	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出量を81%に削減し、省エネルギー対策に配慮した。 敷地外への風通しを考慮し見付面積比率を40.47%とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される